

日越農業協力中長期ビジョン(フェーズ3:2025年～2030年)の概要

- 官民連携を通じたベトナムでのバリューチェーン構築強化を目的に、フェーズ1を2015年9月承認。今般の日越農業協力対話ハイレベル会合においてフェーズ3(2025～30年)を承認予定。
- フェーズ3では、「日ASEANみどり協力プラン」(2023年採択)に沿って、GHG排出削減やスマート農業の取組など持続可能な農業・食料システムの構築に資する取組を強化。
- また、我が国食品企業の海外展開に資するよう、輸出支援プラットフォームの活動強化や日本企業のビジネス・投資環境整備の項目を充実。

※ フェーズ1(2015～2019)、フェーズ2(2020～2024)、フェーズ3(2025～2030)

フェーズ3における新たな取組

- ◆ 「日ASEANみどり協力プラン」に基づく取組
 - ① 我が国のスマート／デジタル農業、GHG排出削減等に関する技術の開発・実証・普及
 - ② 持続可能な農業食料システム構築のための人材育成
- ◆ 輸出支援プラットフォームの活動強化・充実
食品産業の海外展開に向けて、ベトナム政府との連携を強化し、日本企業のビジネス・投資環境改善

これまでの取組を発展・継続

- 農業関連インフラ整備
灌漑施設・集荷センター等の整備 等
- 先進的技術導入支援
規格認証制度の活用、
遺伝資源・植物品種保護 等
- 政策立案協力・大学等への支援強化
政策アドバイザー派遣
高度人材育成 等



カントー大学における教育・研究



安全作物の普及に向けた技術導入
写真上・下 提供JICA

今後の協力の方向性

- ◆ 地方政府と連携した民間投資の拡大
→ 各地方レベルでの先進的技術導入等への期待大
地方政府と連携した我が国民間企業の投資環境整備
- ◆ 農業関連インフラの整備継続
→ 発展する経済規模に応じた物流等インフラの整備継続
- ◆ 日越双方の農業振興に資する人材育成
→ 我が国の農業現場で活躍する人材育成
技能を取得した人材が両国で活躍できる環境整備
- ◆ 地域の特色や条件を生かした取組実施
→ 現地関係者が主体となった事業成果の横展開

日越両国における持続可能な農業・食料システムの構築